

入選 [MR誕生 100 周年記念論文コンクール『私が目指すMR』]

「患者さんと家族の笑顔を取り戻すために」

矢野 勝（塩野義製薬株式会社 大阪・紀和病院医薬営業部）

1912 年に日本に MR が誕生して 100 年の 2012 年。記念すべき節目の年に医療機関から求められる MR とはどんな MR なのか考えてみたい。私が MR 活動の中で常に意識していること。大切にしている考えがあります。それは私が医師や薬剤師など医療機関の方々に提供する医学・薬学情報、治療提案が患者さん、ご家族の視点になったものになっているかの自問自答です。もう少し分かりやすく言うと我々が提供する情報、治療提案は自信をもって、自らの家族にもできる治療提案、情報提供なのかということです。

私は 1994 年入社して神戸に配属されました。翌年 1995 年 1 月に神戸で震災に遭いました。6,000 人を超える犠牲者をだした大きな震災で自然の力に人間の無力さを感じたものです。そんな中、MR として被災した神戸市民のためにできることはないかと必死で考えました。震災関連の自社品関連文献（クラッシュ症候群、PTSD、不安障害、不眠など）を被災した患者さんを診察する医師のもとへ情報提供しました。避難先の西宮研修所から神戸市の病院まで約 15km の道のりを毎日歩いての情報提供で、当時はインターネットで自由に何でも情報入手できる時代ではなかったので先生方から非常に感謝された事を記憶しています。当然の事ですが、先生の向こう側に患者さんがいて我々と薬でつながっているのだと新人 MR として認識した大きな出来事でした。これら患者思考の考え方は MR 活動の中で最も大切にしている私の基本的理念であります。

現在、私は医療関係者から医療パートナーとして信頼され必要とされる MR を指導・育成する立場にあります。本年 iPS 細胞で日本人がノーベル賞受賞という嬉しいニュースもありましたが医療は益々高度化して MR に求められる情報も高度・専門化しています。そんな状況下で益々、多様な情報を提供、収集、伝達するスキルも必要不可欠となります。医療機関の方々への質の高い情報提供は勿論のことですが、私は MR 資質の中でも最も優先されることは高い倫理観ではないかと考えています。1つの薬が患者さんに投薬されて期待された効果が得られたか。副作用はどうか。患者さんやご家族は笑顔を取り戻したかということです。先日、先生から感謝の言葉をかけられた。「難治性の神経障害の患者さんに〇〇を使ったら本当によくなったよ。患者さんも喜んでいるのですが、毎日毎日、（患部の）足を擦って励ましていたご家族が本当に喜んでいてね」先生よりこの話を聞いて私は鳥肌が立ちました。このように患者さん、ご家族の笑顔が戻ったと先生からお聞きすると胸が熱くなり何度経験しても自分の事のように嬉しくなります。

今は高い倫理観を持ち合わせた MR を育成すること、患者さん、家族の笑顔を取り戻すお手伝いができる MR を育成することが私の社会的使命であり責務と考えています。その結果、医療機関のスタッフに信頼され、薬物治療の真のパートナーとなることができると信じています。

最後に私自身の大きな夢です。それは担当エリアにおける全てのがん患者さんからの痛みの解

放。1986 年 20 世紀中に全てのがん患者さんの痛みを取るという目標で世界保健機関 WHO が WHO 方式がん性疼痛治療法を提唱しましたが、現在でも全てのがん患者さんが完全除痛を得られているというわけではありません。

日本における死因第一位である癌。3 人に 1 人が癌でなくなる時代に癌性疼痛治療薬を取り扱う製薬会社として痛みで苦しむ全ての患者さんの痛みを取り除いてあげたい。そのために必要な情報提供で一人でも多くの患者から笑顔がこぼれるサポートがしたい。1 人 1 人の患者さんには様々な人生、歴史があり、愛する家族がいます。愛される家族もいます。家族とともに痛みなく笑顔で尊厳ある最期をむかえて欲しい。そんな想いで日々の MR 行動を続けたいと思います。患者さん、家族の笑顔に貢献できる MR という仕事に誇りをもって今後も自己研鑽、自己成長しながら、自らの夢を実現したいと思います。